

令和8年度 第1回LGX・デジタル戦略推進本部会議

日時 令和8年4月27日(月)
午前10時から午前10時45分まで
会場 県庁東館5階特別会議室

次 第

1 開 会

2 CAIO(知事)訓示

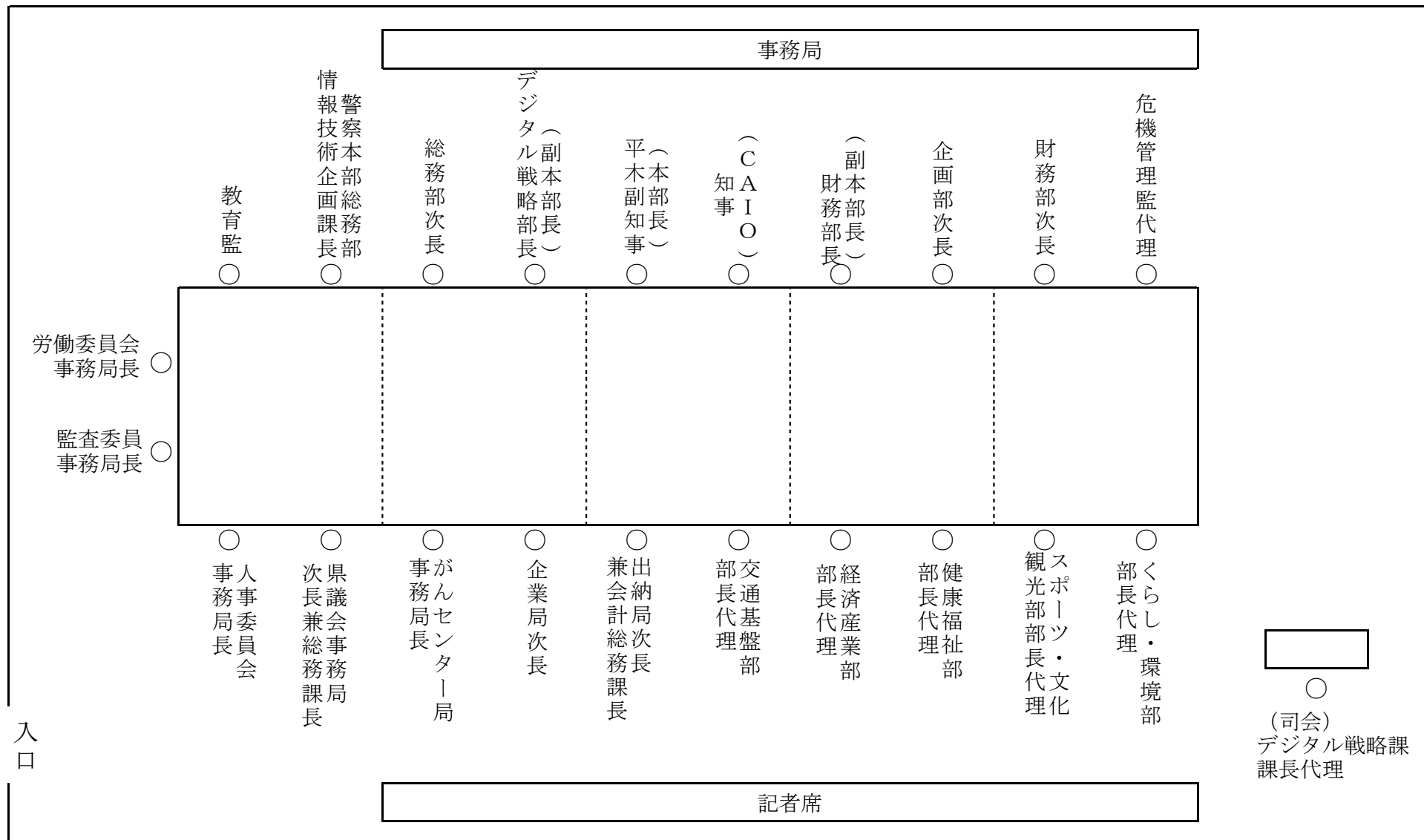
3 議 題

○ AI推進のための具体的アクション

4 閉 会

令和8年度第1回LGX・デジタル戦略推進本部会議 座席表

日時 令和8年4月27日(月) 午前10時～
 会場 県庁東館5階特別会議室



令和8年度 AI推進のための具体的アクション

まずはAIを！静岡県庁働き方『アップデート』宣言(令和8年4月1日発出)

【活用ステップ】	Step 1: AIに触れる	Step 2: AIを使いこなす	Step 3: AIに任せる
【目指す状態】	全職員が業務に活用することを習慣化している	AIのポテンシャルを最大限に引き出す	職員はヒトにしかできない仕事に集中する
【具体的アクション】	<ul style="list-style-type: none"> 生成AIアカウント全職員配布 初級者向けeラーニング AIへの指示文(ひな形)の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 業務の簡易AI適用診断 中級者向けワークショップ等 AI活用コンテスト・事例共有 	<ul style="list-style-type: none"> AI導入基本方針策定 共通業務(財務会計事務等)、個別業務へのAI導入実証
	全職員AIユーザー化	スモールスタート『試して、改善』の好循環	定員適正化計画プロジェクトチームと連携
	DX推進リーダー(育成者数倍増)	AI戦略推進室(室長・精鋭チーム)	
	デジタルDIYラボ(新規)	庁内AI活用等に向けたネットワーク基盤の整備	
【技術支援】			
【環境整備】			

生成AIアカウント全職員配布（生成AI「exaBase」の活用）



<生成AI「exaBase(エクサベース)」の特徴>

- ・ GPT、Gemini、Claude等、複数の生成AIを搭載
- ・ 入出力情報が学習に用いられない、安全な環境下で利用
- ・ AIへの指示文（プロンプト）のテンプレートを活用可能
- ・ 利用状況を自動集計し、効果を見える化

<導入経過>

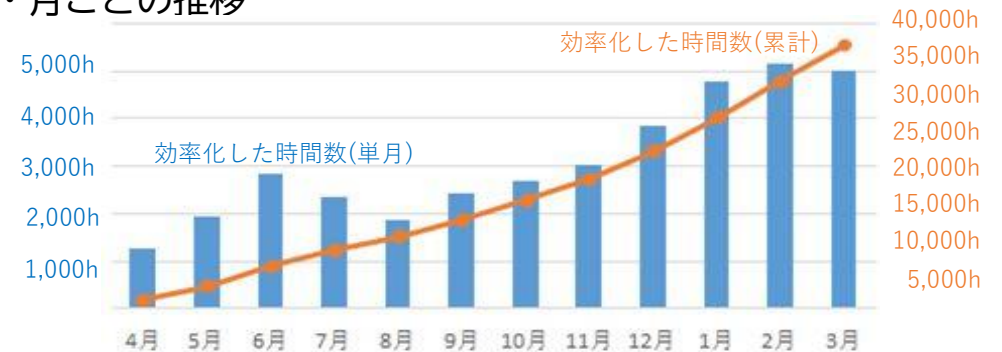
- ・ 令和6年度：本庁のモデル所属で実証
- ・ 令和7年度：出先機関を含めて全庁展開（課単位でアカウントを配付）

<令和8年度の取組>

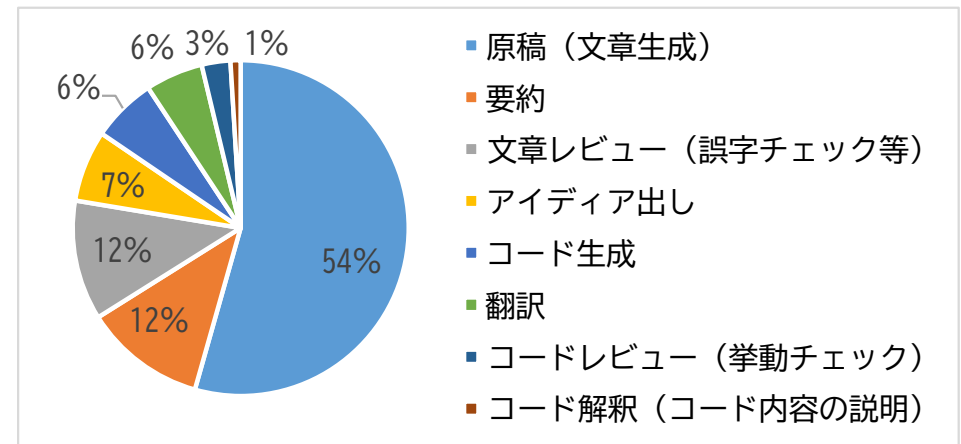
- ・ 利用履歴やお気に入りを個人ごとに管理できるよう、**アカウントを全職員に個人単位で配布**
- ・ 習熟レベルに応じた研修を実施

<令和7年度の利用実績>

- ・ 生成AIの活用により効率化した時間数
年間 36,983時間
- ・ 月ごとの推移



・用途の内訳



生成AIへの指示文(ひな形)の提供

生成AI初心者の困りごと

- ・指示文をどう入れればいいのか分からない。
- ・思ったような結果が得られない。

テンプレートを使ってみましょう

どんな作業を手伝いましょうか？

何でも聞いてください

エージェント ツール **テンプレート** GPT / Standard (JP)

改行: shift + Enter

テンプレートのメリット

- ・指定項目に入力するだけで、自動的に指示文が作成される。
- ・より良い結果が出る工夫がなされている。

生成AIでよく使われている指示を、
初心者向けのテンプレートとして提供します。

テンプレートの例

指定された項目に入力

キャッチコピーのアイデア出し
キャッチコピーの使用目的を入力してください

職場に導入した生成AIを全職員に使って
もらいたい

キャッチコピーの狙いを入力してください

心理的ハードルを下げる、試しに使って
もらう後押しをする

対象商材と主要なポイントを入力してください

対話型で簡単に使える生成AI(exabase)と
いうソリューション

ターゲット層を入力してください

40代から50代の管理者・監督者

プロンプト全文
開く

決定する

指示文を自動的に生成

目的

- ・キャッチコピーの使用目的：職場に導入した生成AIを全職員に使って
もらいたい
- ・キャッチコピーの狙い：心理的ハードルを下げる、試しに使ってもらう後
押しをする

提供情報

- ・対象商材と主要なポイント：対話型で簡単に使える生成AI(exabase)と
いうソリューション
- ・ターゲット層：40代から50代の管理者・監督者

結果が得られる

No.	キャッチコピー案
1	「まずは話してみよう、生成AIが味方です」
2	「簡単対話で業務効率アップ、試して実感！」
3	「管理者も安心、生成AIで仕事をもっと楽に」
4	「50代から始める、未来の働き方サポート」
5	「話しかけるだけで、あなたの仕事がサポート」
6	「心理的ハードルゼロ、生成AIが助けます」
7	「まずは触ってみる。生成AIは使いやすい」
8	「管理職も納得！簡単操作の生成AI」
9	「AIがもっと身近に、気軽に使える職場へ」
10	「試してみよう、あなたの仕事革命パートナー」

AI活用コンテスト

目的

- ・業務の効率化や県民サービス向上に向けて生成AIを使いこなす状態を目指す。
- ・成功事例を表彰し、職員の動機付けを高め、優良事例の共有による横展開を行う。

開催方法(案)

区分	内容
開催時期	年2回(9月、2月)
募集方法	各部局からの推薦(5件程度)
審査方法	デジタル戦略課の事前審査により優良事例を選定 優良事例は、CAIO、CIOにプレゼンテーションを実施 審査により最優秀事例を決定し、CAIOが表彰
審査視点	業務効率化(事務負担の軽減、属人的な作業の解消等) 県民サービス向上(効果的な広報、情報の可視化等)
その他	最優秀事例、優良事例は全庁掲示板で周知する 横展開できる事例は、exaBaseのテンプレートに掲載



プレゼンテーション審査のイメージ
(R7職員政策提案制度 二次審査の様子)

DX推進リーダー

部局内でA I活用を進めるに当たり、知識と意欲を持つ「DX推進リーダー」の力を使ってください。

<位置付け>



- ・デジタル及び行政実務の知識・経験を兼ね備え、中核となって職場のDXを推進できる人材
(例：デジタルツールの導入・活用による所属の業務変革を主導)
- ・研修所研修「DX推進リーダー育成講座」(R4～)において、デジタル技術の基礎知識やBPR、イノベーション手法等を習得

<配置状況>

計65人(在庁職員のみ抽出)(単位：人)

部局	人数	部局	人数	部局	人数
企画	4	健福	6	議会	0
総務	4	経産	11	人事委	0
財務	7	交基	12	監査委	0
危機	3	出納	2	労働委	0
くら環	5	企業	0	教委	2
スポ文	9	がんセ	0	合計	65

<令和8年度の育成計画(予定)>

- ・募集開始：6月末
- ・募集定員：**50名**(～R7は25名)
- ・開催方法：対面での講義・演習とeラーニング
- ・研修期間：8月から12月(対面の講義・演習は3回程度)

庁内AI活用等に向けたネットワーク基盤の整備

インターネット上の安価なクラウドサービスを利用できるよう、ネットワーク環境を整備する

ねらい

県民サービス・生産性を向上させるため、AIツールやクラウドサービスを最大限活用
 ・AIツールやクラウドサービスの選択肢が広がる。
 ・庁内情報システムの最適化にあたり経費削減効果が増大
 (参考)国は2030年に向けて、三層の対策の見直しを決定

クラウドサービス等の特徴

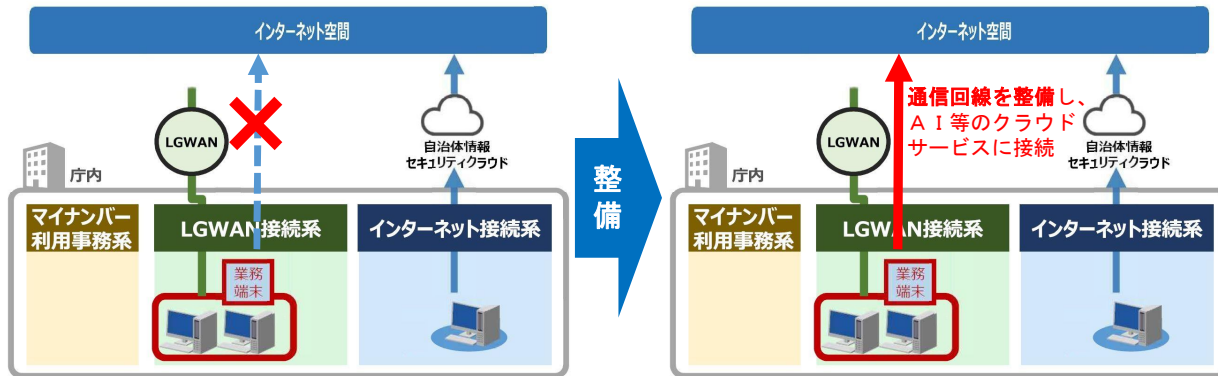
- ・最新技術の導入
- ・安価
- ・保守管理不要
- ・乗り換えが容易

整備内容

職員端末からクラウドサービスを利用できる環境を整備

現状 マイナンバー利用のため
過剰なセキュリティ構成

整備後 セキュリティは確保し、
クラウドサービスが利用可能



経費

区分	初期費用	運用費用(年)
基盤整備	240百万円 (一般)	140百万円 (一般)

スケジュール

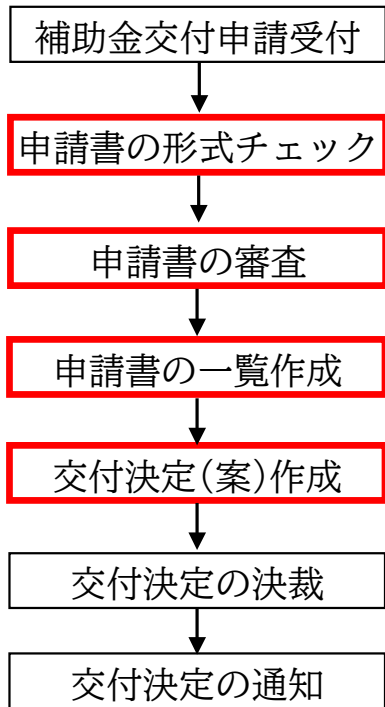
R 8	R 9
ネットワーク整備	既存システムとの接続 AI・クラウド 利用開始

共通業務、個別業務へのAI導入実証

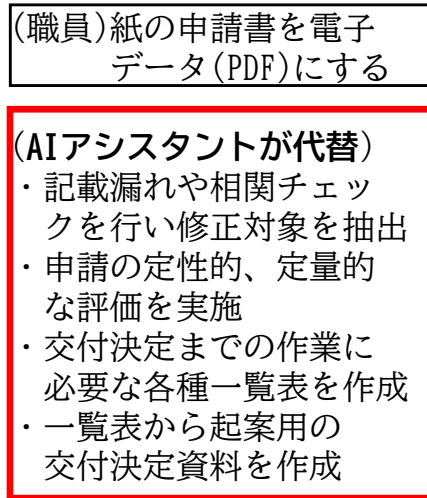
実証の対象（例：補助金業務）

大量の書類のチェックや項目の転記・集計など、機械的かつ職員の負荷が高い作業をAIに代替させる。

従来の事務作業



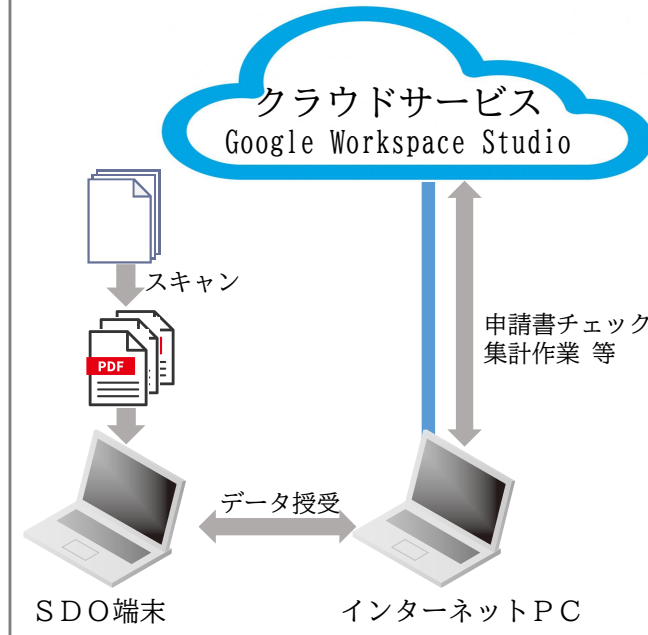
AIが代替する作業



※赤太枠は実証事業で対応を予定している作業
 ※このほか、交付確定に向けた実績報告のチェックや、補助金業務以外の事務（許認可等）での活用も可能

実証環境

クラウドサービスの利用に必要な一時的な試験環境を、電子県庁課が提供する。



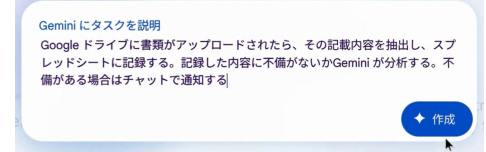
GoogleWorkspace Studio

- ・ Googleの各種サービスを連携させ、AIにより作業フローを自動化するツール
- ・ 作業フローの作成は、日本語で指示できる（ノーコード・ローコード）
- ・ 紙資料をデジタル化することで、内容の転記や記入項目のチェック等を自動化できる。

作業イメージ

日本語でAIへの指示を行う。
 (デジタル戦略課が伴走支援する。)

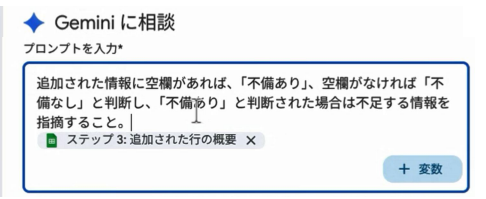
① AIの作業内容を日本語で指示



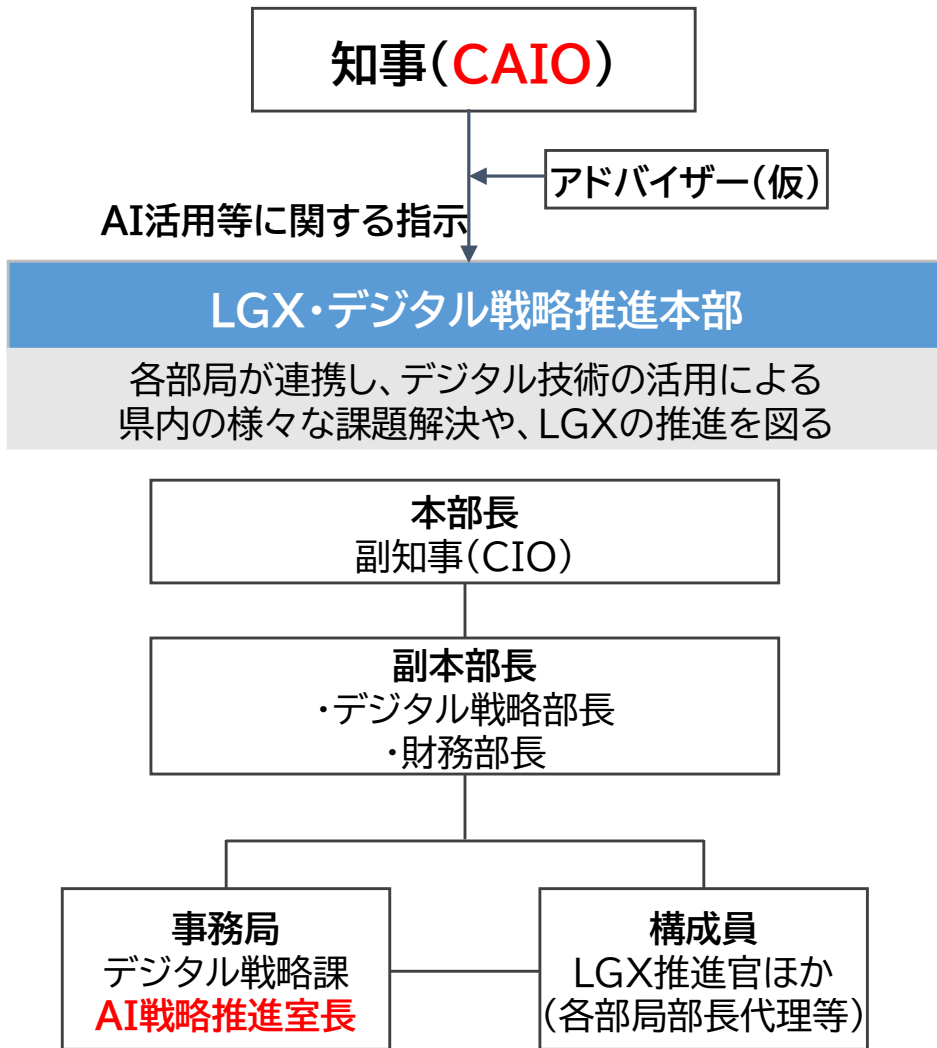
② AIが作業ステップを作成 必要に応じて手動で追加・調整



③各ステップの詳細を日本語で指示



AI活用に向けた推進体制

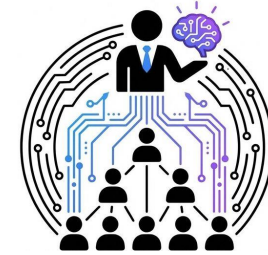


部局名	構成員
企画部	次長兼 L G X 推進官
総務部	次長兼 L G X 推進官
財務部	次長兼 L G X 推進官
危機管理部	危機管理監代理兼部長代理兼 L G X 推進官
くらし・環境部	部長代理兼 L G X 推進官
スポーツ・文化観光部	部長代理兼理事 L G X 推進官
健康福祉部	部長代理兼 L G X 推進官
経済産業部	部長代理兼 L G X 推進官
交通基盤部	部長代理兼 L G X 推進官
出納局	次長兼会計総務課長兼 L G X 推進官
企業局	企業局次長
がんセンター局	がんセンター事務局長
議会事務局	次長兼総務課長
人事委員会事務局	人事委員会事務局長
監査委員事務局	監査委員事務局長
労働委員会事務局	労働委員会事務局長
教育委員会	教育監
県警本部	警察本部総務部情報技術企画課長

トップ層のAI活用アイコン化

アイコンとは『AIを日常的に使い、周囲にも影響を与える“象徴的存在”』

- トップ層(知事・副知事、部局長)が**積極的にAIを活用している姿の見える化**
- 庁内職員にAI活用価値を認識させ、庁内全体での活用を促進



トップ層におけるAI活用業務



面会前の準備

事務方が提供する経歴資料に加え、ネット上に散在する面会者の講演や発表内容、寄稿等を収集

⇒ **円滑な意見交換の材料を提供**

AIからの出力内容

- ▶ 直近の講演や発表資料
- ▶ 直近の関係団体の報道
- ▶ 先方の関心領域



挨拶文の調整

事務方の文案に対し、例えば、「つかみ」の提案、聴衆の属性に合わせた挨拶トーンへの修正

⇒ **御自身の好みや聴衆の属性に合う表現にカスタマイズ**

AIからの出力内容

- ▶ 希望する条件(例:時間や聴衆の属性、伝えたい内容)に応じ、調整



協議資料の事前検証

部局の協議資料に対し、「客観的かつ中立的な第三者」として指摘すべき項目を提案

⇒ **協議に活用いただくことで、事務方によるAI事前検証を習慣化**

AIからの出力内容

- ▶ 検討事項の不足を指摘
- ▶ 論理的飛躍や説明不足の抽出
- ▶ 潜在的リスクの指摘

生成AIによる協議資料の事前検証の手順

協議資料を生成AIでチェックすることで、論点の整理や指示事項の検討がしやすくなります。

①協議資料を生成AIにドラッグ&ドロップし、指示文を入力



指示文の例

生成AIを担当する所属において、知事から職員に向けた「生成AIの活用を促すメッセージ案」を作成しました。所属に対するフィードバックをするため、この文章を評価し、懸念点や不足する項目を整理した上で、担当課としてこれから行うべき取組について、A4で1枚分のコメントを作成してください。

※出力された後に、「厳しめに評価して」、「良い点を挙げて」など、観点を変えて指示を繰り返すことで多角的にチェックできます。

②出力結果

※一部省略しています

```
# フィードバックおよび今後の取組に関するコメント
## 評価
知事の「生成AIの活用を促すメッセージ案」は、以下の点で意義深く、前向きな内容となっています。
- **トップ自らの推進宣言**：知事自身が就任し、先頭に立って推進する姿勢が示されており、組織全体の動機付けに寄与します。
- **具体的な行動指針の提示**：「AI活用ステップ」に沿って積極的な活用を進めるよう呼びかけており、実践を促しています。
(略)
## 懸念点・不足項目
以下の点を補強・明示することが望ましいと考えます。
1. **具体的な活用例の提示が不足**
職員が自分の業務にどうAIを取り入れれば良いかイメージしやすいよう、具体的な事例や想定される業務改善例を示すと良いでしょう。
2. **教育・研修体制の説明不足**
AI活用をどのように学び実践していくのか、研修の計画やサポート体制について触れることで、不安解消やスムーズな導入が期待できます。
(略)
## 担当課としての今後の取組方針
1. **職員向け教育・研修プログラムの実施**
・基礎から実践まで階層的な研修計画
・eラーニングやワークショップの導入
2. **活用状況のモニタリングと効果測定**
・定期的なアンケートやヒアリング実施
・導入効果のデータ分析による改善提案
(略)
```

③出力結果を踏まえて協議資料を確認

(参考) 生成AIへの指示文のコツ

「役割」を最初に与える — パルソナ設定

「あなたは〇〇の専門家です」の一文が、回答の深度・語彙・視点を根本から変える。ない場合と比べ、情報の解像度が上がる。

× BEFORE

法律について教えて

☑ AFTER

あなたは行政法専門の弁護士です。条例制定の手続きを教えてください

「ステップバイステップで考えて」を末尾に添える

Chain-of-Thought (CoT) の効果。この一文で推論プロセスが可視化され、論理の誤りが減少する。複雑な問題ほど効果が高い。

× BEFORE

この企画の問題点は？

☑ AFTER

この企画の問題点は？ステップバイステップで考えてください

「読者・対象者」を明示する

「〇〇向けに書いて」の一言で語彙・例示・深度が自動調整される。対象が明示されないと、平均的な文体となり、誰にも刺さらない文章になる。

× BEFORE

AIの説明文を書いて

☑ AFTER

ITに不慣れな70代の方向けに、AIの説明文を書いて

「まず質問してから回答して」で双方向化する

複雑な依頼の前に「不明点があれば先に聞いてください」と添えると、AIが不足情報を補おうとせず確認を挟む。手戻りが激減する。

× BEFORE

企画書を書いて

☑ AFTER

企画書を書いて。不足情報があれば先に2~3点質問してください

LGX推進官への主なお願い

お 願 い

- ・全職員AIユーザー化の早期実現
- ・スモールスタート意識の醸成
- ・AI活用コンテストへの積極応募の働きかけ
- ・AI導入実証への協力
- ・AI活用アイコン化への協力
(部局内幹部職員会議等において、
自らのAI活用事例を披露する など)

当 面 の 目 標

- ・7月末まで(3か月間)に全職員をAIユーザー化
- ・生成AIの活用により効率化した時間数の目標
「令和10年度 40,000時間」
を前倒し、令和8年度中の達成を目指す。

実 施 に 当 た っ て

- ・具体的アクションに示す手段の活用や、
各部局の創意工夫により推進してください。
- ・デジタル関係課(デジタル戦略課・電子県庁課)
が全力で支援します。
- ・LGX推進官の相談窓口を設置します。
(AI戦略推進室長が対応)

まずはAIを！ 静岡県庁働き方『アップデート』宣言

急速な人口減少に伴う労働力不足が社会課題となる中、県庁においても限られた人員で多様化・複雑化する行政需要に的確に対応するため、AIの活用を前提とした生産性の高い組織へ転換します。

職員の皆さんは「AI活用ステップ」に沿って、AIの積極的な活用を進めていきましょう。

令和8年4月1日

静岡県知事・CAIO 鈴木 康友

【AI活用ステップ】

1 まずはAIに触れ、日々の業務に活かしましょう

日々の業務において、何か困ったときや効率化したいことがあれば、まずはAIの活用を試してください。業務に活用することを習慣化し、AIを身近なパートナーとして使い倒しましょう。

2 AIの活用スキルを磨くとともに、成果を皆に共有しましょう

研修や情報収集を通じて常に自身のスキルを磨き、AIのポテンシャルを最大限に引き出す方法を追求してください。また、試行錯誤の結果得られたAIの画期的な活用方法などは、組織全体の知恵となるよう、積極的に周囲に共有しましょう。

3 AIができることはAIに任せましょう

AIが得意な業務はAIに任せることで、職員は、政策判断や利害関係者間の調整といった、ヒトにしかできない仕事に集中できるようになります。AIに任せる業務の範囲を広げるよう工夫していきましょう。